

CO₂排出ゼロの再生PET樹脂

協栄産業

CERなど活用 顧客と用途開発へ



小山工場では徹底した品質管理のもとでカーボン・ニュートラル・ペレットを生産する

協栄産業(栃木県小山市、古澤栄一社長)は、今月から原材料製造段階のCO₂排出量をゼロにできる再生PET樹脂「カーボン・ニュートラル・ペレット」の供給を開始する。回収PETボトルを原料に用いることで石油由来のバージンPET樹脂に比べCO₂排出量を63%削減、残りの37%についても排出権(CER)を活用しオフセットした。環境配慮型製品の拡充を進める多くの企業が関心を寄せており、温暖化防止、省資源化に寄与する素材として共同で新用途の開発を進めていく。各種梱包材や繊維製品などへの活用が期待される。カーボンオフセット素材の販売はリサイクル業界初の試み。

協栄産業は、PETやオレフィン系樹脂などの再生加工・販売を行うリサイクル企業。アルカリリ洗浄工程を経て回収PETボトルから作られた同社のマテリアルサ

のトナーボトルなどにも採用されている。

単一素材で単一回収でき、かつ品質の高いPETボトルは良質な「都市油田」として、さらなる活用が期待される。ただ中国など海外市場へのPETボトル流出はいぜん

続いており、国内リサイクル市場を取り巻く環境は決して楽観視できる状況にない。貴重な資源の流出を防ぐ意味からも、

同社は強みとする品質に加え、環境負荷低減という機能を再生PET樹脂(ペレット)に付与することで用途を拡充し、国内リサイクル市場の活性化を図る。

この一環として実施したのが、製造するペレットの温室効果ガス削減効果の「見える化」。使用済みPETボトルの回収から再生ペレット製造に

いたるライフサイクルでのCO₂排出量を算出したところ、同社がペレットを工場製造する際に排出するCO₂は0・583トンで、バージンペレット(1・577トン)に比べ63%のCO₂削減効果があることが分かった。排出量算定は三菱UFJリサーチ&コンサルティングが行った。さらに同社は、今後求められる温室効果ガス的大幅削減に対応するため、CERを用いて残りの37%のCO₂についてもオフセット、カーボン・ニュートラル・ペレットを実現した。CERはインドや中国における風力発電プロジェクトから計5000トンを取得しており、約9000トンのペレットを供給することが可能。引き続き他のソースからもCERを取得していくが、まず9000トンを活用し顧客と連携してカーボンフリー製品を開発、新規需要を創出していく。

IT機器の省エネを「見える化」

オフィス管理システム発売

OKINET

OKINETネットワークインテグレーション(OKINET)は1日、ネットワークを活用したIT機器エネルギー管理システム「Cooliover」の提供を今月20日から開始すると発表し、オフィス内のIT機器の電源設定を統合的に制御できるため、適切なエネルギー使用量の管